

子どもの 道徳

道徳のこれまでとこれから

新宮弘識／加藤宣行／土田雄一 …… 1

特集 道徳の授業開きのポイント

低学年

道徳の授業を通して、
生きる喜びを感じる子どもの育成をめざして—原 英子 …… 3

中学年

めあてをもって生活する
道徳の授業開きから授業納めまで—高橋 純 …… 5

高学年

児童の道徳性の発達段階を捉え、
「学習プロセス」を学ぶ道徳の授業開き—古見豪基 …… 7

評 価

「学びの足あと」を用いた道徳の評価—市川洋子 …… 9

道徳教科書 Q&A …… 11

デジタル教科書 どう使う？ …… 13

No.118

教育における二つの極の和

道徳の教科化によって、心情道徳といわれる気持ち中心の道徳授業が批判され、考える道徳が強調された。これを受けて、^{にわか}俄に問題解決的な学習が注目されている。これは、子どもが人間のよさを考え、そのよさがわかり、人間のよさに向かって課題をもって生活しようとする、子ども主体の道徳教育を重視するものとして評価できる。しかし、子どもの主体的な学びを期する考える授業、つまり「理」の教育を強調するあまり、よい意味での「情」の教育が軽んじられはしないかという危惧の念も抱く。人間は、「理」では動かない。「情」で動く。その情は、理に支えられていないと危ない。物事の善し悪しを多面的・多角的に考え、理解し判断する力を育てる「理」の教育は大切である。理の教育と情の教育とが往復運動を起し、両者がバランスよく和されてこそ、道徳的意志が確かなものになっていく。このような道徳の授業を私は、銘酒にたとえて、「こくのある芳醇な道徳授業」とよんでいる。内容のある香り高い授業という意味である。これは、矛盾する二つの極をバランスよく和することで高い次元の教育を期する授業である。「だれにでもできる道徳の授業」には、なじまないかも知れない。しかし、「だれ

道徳教育の進むべき道

ついに道徳の教科化元年がスタートする。ここに来るまでの経緯には、賛否両論・紆余曲折あった。問題の本質は、昭和33年の道徳の時間特設の際にも議論になったことと同じであろう。正直トップダウンの感は否めないが、どのような思惑があるにせよ、週一時間の道徳の授業を大切に行うということ自体に異論はない。

もちろんこれは、教科書を使って年間計画通りに遺漏なく授業を行うというような、制度的なものを意味しない。週一時間だからこそできること、すべきことを子どもたちの目線で考え、子どもと共に学びを創り上げていく授業に変えていこうということである。それができたとき、教科化の本来の目的は達せられると考える。

教科化の本来の目的は、道徳教育が子どもたち自身の生き方につながるような、意味ある学びとして子どもたちの中に根付かせることができるか

淑徳大学名誉教授 新宮 弘識

にでもできる道徳の授業」は、教師の都合で子どもの都合ではない。

考えてみれば、我が国の教育は矛盾する二つの教育論の中で揺れ動きながら、どちらか一方の極に偏って、二者択一の道をたどってきた。考える教育と体験を通した教育に関して、「道徳教育は特活と違って心の教育である」として、道徳教育は道徳の時間で終わりとする考えが強く残っている。子どもの可能性を伸ばす教育と問題点を改めさせる教育に関して、問題のない学級づくりのために道徳の授業を行おうと考えて、子どもの問題点を改めさせる道徳の授業に偏ってはいないか。

道徳の授業とは直接関係がないが、叱ると誉める・厳しさと優しさ・不易と流行・形の教育と心の教育・教育の計画性と柔軟性等々、二つの極どちらかに偏らないで、両者を和した教育が、今後の道徳教育の重要課題ではないかと思われる。

二つの極は、それぞれ特質と問題点をもっている。お互いの特質を生かし合い、問題点を補い合うことで、質の高い教育が可能になるのである。このような教育を実現するには、教師の人間力が問われる。「教師よ。哲学せよ」といわれた元文部大臣有馬朗人先生の言葉を玩味したいものである。

筑波大学附属小学校 加藤 宣行

どうかということであろう。そのために必要なことは、「分かりきったことを言わせたり書かせたりする」従来の登場人物の心情を追っていく読み物道徳から、「深く考え、議論する」道徳へというキーワードが示すとおり、道徳授業の意識改革である。そもそも、表面的な行為行動からそれを生む心を考えるというような「哲学する道徳」を模索してきた私たちにとって、何ら新しいことのように思えない節もあったが、一般的に見れば大きなシフトチェンジであり、凝り固まった授業観を刷新する好機であるという認識である。かといって、議論が白熱すればよい、相手の意見にいかに対抗するかということに頭をひねり考えればよいということではない。今後新たな懸案事項があるとすれば、「深く考え議論する」ということはどういうことなのか、何のための議論なのか、授業のゴールはどこに設定すればよいのか、そのた

めの評価はどのようにあるべきか、などであろうか。

「子どもの道徳」というタイトルは、文字通り道徳を子どものものとしようという気持ちの表れであったと思う。大人や教師の都合で価値を押しつけるのではなく、かといって子どもたち自身の価値判断に全てを委ねるのでもなく、教え伝えるべきことは教え、考えさせるべきことは深く考えさせる。これが教育であり、学びであるという思いである。そのような意味では、我々は教科化が

これからの道徳科全面実施に期待する

いよいよ道徳科がスタートする。初の検定教科書を使用した授業が実施され、記述式で「評価」をする。A市実施の「道徳科への不安に関する調査」(平成27年)によると、「評価の仕方」「通知表への記載」に9割以上が「不安を抱えている」と回答し、「教科書をすべて扱う」ことへの不安も8割近くが感じていることが分かった。教科化のねらいは、未来を拓く子どもたちの「心を育てる」ことにあり道徳性の育成が目標である。教科書を活用し「主体的・対話的で深い学び」を実現する道徳授業へと「質的転換」をめざす。学校や個人によって差が大きかった「道徳の時間」を「特別の教科」にすることで、その量と質を高め、心の教育を充実させるものである。

「考え、議論する道徳へ」がキーワードである。道徳科の目標には、道徳性を育てるために「物事を多面的・多角的に考える」ことが加わり、自分の生き方についての考えを深める学習を通して、「道徳的な判断力、心情、実践意欲及び態度」を育てるとある。これを受け、「考え、議論する道徳」を目指すあまり、「議論が目的化した授業」も散見される。道徳的ねらいを失念した授業である。道徳的ねらいを大切に子どもたちに考えさせる発問等を工夫すれば、大きな転換を迫られることはない。

道徳科の評価は、指導要録への記載が義務付けられている。「児童(生徒)の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすように努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする」(※)とし、「記述式」「大きくくりのまとめり」での「励まし伸ばす個人内評価」としている。現場では、「通知表」

云々されるずっと以前から、道徳教育はいかにあるべきか、道徳授業で子どもたちに何を学ばせるのかを考えてきたし、本冊子を通じて発信してきたつもりである。本冊子が主張してきたことは、今回の教科化に伴う一連の変革の中で達成できたと考える。

道徳教育が新たな方向へシフトチェンジするこのタイミングをチャンスと捉え、私たちもさらなる意識改革をすべきであろう。

千葉大学教授 土田 雄一

への文例を求める声が多い。しかし、「どう書くか」の前に、1時間ごとの授業を大切に、子どもの成長のプロセスを見取ってほしい。通知表に書いた文章が似通っていても、文例を見て記述したものとプロセスを見取って記述したものでは質が大きく異なる。通知表への記述が、道徳科のゴールではない。評価は子どもたちのよりよい成長のためのものである。

道徳の教科書を順序よく実施するのではなく、学年・学校の行事等に合わせて配列を工夫する「カリキュラムマネジメント」がポイントとなる。すなわち、教材と行事を関連させた「年間計画の作成」が必要となる。宿泊学習と学芸発表会がある取り組みが参考になる。「まかせてみようよ」(光文書院5年)の後に宿泊学習を実施し、続けて「学級新聞作り」「みんなの劇」のあとに学芸発表会を実施したところ、児童の自己評価が大きく変容した。「協力意識」や「思いやり」の評価が大きく高まった。教科書教材を行事等と組み合わせて活用することで、成果を上げることができる。

道徳科の全面実施は、道徳教育の充実、心の教育の充実につながるか。両面のシナリオが考えられる。よい教科書教材と多様で効果的な指導方法により道徳の時間が充実し、成果を上げるシナリオと道徳授業がパターン化し、形骸化するシナリオである。「道徳科元年」。道徳科がどちらのシナリオに進むのか。教師が変われば、子どもも変わる。未来を拓く子どもたちには道徳科は必要であり、今後に期待したい。

※「小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編」, 文部科学省, 2016

道徳の授業を通して、生きる喜びを感じる子どもの育成をめざして

倉敷市立大高小学校 原 英子

1. はじめに

低学年、特に1年生の子どもに1年間かけて味わってほしいと思っていることは「学校は楽しい」「学校が好き」という思いである。そのためには、先生や友達との関わりを喜べること、小学校での活動に自分なりに意味を見出せることが必要だと考える。

道徳の授業についても同じで、先生や友達と学ぶことの楽しさや、道徳で学ぶことの意味を子どもなりに見出すことができるようにしたいと思っている。

では、道徳では何を学ぶのか。「よりよく生きたい、人と共に生きたいと願う人間のすばらしさに気づき、人間っていいなあ、生きていくっていいなあと感じること」だと、私は思う。

「低学年にそこまでは……無理でしょう。」と言われそうだが、低学年だからこそ、素直に、まっすぐにそう感じるものだと思っている。

2. 指導例

授業開き

ねらい：道徳の授業についてのイメージをもつとともに、先生や友達と一緒に考える楽しさを味わうことができるようにする。

教材：表紙・オリエンテーション

流れ：教科書名である「ゆたかなこころ」をキーワードに、オリエンテーションを活用しながら、道徳での学びを子どもと教師が共有する。

T：（教科書の表紙を見せながら）「ゆたかなこころ」って、どんな心だと思いますか。いい心でしょうか。あまりよくない心でしょうか。

C：いい心だと思う。

C：優しい心かなあ。

T：優しい心ってどんな心なの。

C：人に優しくするんだよ。

C：だれか困っていたら助けてあげる。

C：けがとかしたら大丈夫かなって……。

C：このあいだ○○ちゃんが～してくれた。

T：そうなんだ。みんなにもあるの？ みんな、優しい心、ゆたかな心をもっているんだね。

C：もっと優しい心、知ってるよ。

T：そうなんだ。みんなは、友達や先生の言っていることややっていることから、そんなすてきな心を見つけれられるんだね。

道徳の時間は、絵を見たりお話を読んだりして、そんなふうに「ゆたかなこころ」を見つけていくんだよ。みんななら、しっかりできそうだね。

*道徳の授業で何を学ぶのかという意識を高めるために、オリエンテーションを活用する。子どもの発言と内容項目の4つの観点を関連させて説明したり、授業開きでの活動をもとに、どのように学ぶのかという学び方の確認を行ったりすることで、共に学ぶ楽しさや道徳で学ぶことの意味を、子ども自身が見出せるようにしていきたい。

T：さっきみたいに、自分が思っていることをしっかりお話したり、友達の話の聞いたりできると、とっても楽しいお勉強ができそうだね。

*子どもの実態に合わせ、道徳の学習を通してどのような自分になりたいかという目標をイメージさせることも有効だろう。低学年なので、まずは「考えることが楽しい」という気持ちをもたせて、授業に入っていきたい。

授業「がっこうまでの みち」1年

ねらい：自分の周りには、自分を守ってくれる人がたくさんいることにありがたさを感じることができる。

流れ：「ありがとう」を、どんな時にだれに対して言っているかを考えさせる。家族や友達に言っているという発言に対し、「こういう人たちだけかな」と問題意識をもたせる。

さし絵を見ながら、何をしてくれているのかを考えていくと、自然と旗当番をしている友達のお母さんや毎朝校門で迎えてくれる校長先生の名前が出たり、みんなが同

じように自分たちを大切に思ってくれていることに気づいたりしていった。

最後に「どんな人に『ありがとう』を言いたいかな」とたずねると、登校班の高学年や、先生、毎朝出会う旗当番の人たちなど、身の回りにたくさん「ありがとう」を言いたい人がいることを実感できた。



授業「みんなで まもろう」1年

ねらい：きまりをまもることのよさを実感する。
流れ：導入で、きまりにはどのようなものがあり、なぜそれがあるかを考えさせる。

さし絵を見ながら気づいたことを出し合い、友達や先生、次に使う人や知らない人、そして自分のためでもあることや、命や安全のためであることなど、多面的・多角的な考えを交流することができた。「じゃあ、みんなはきまりを守るとどんな顔になるのかな」と問い、それぞれが自分の顔を黒板に描き、笑顔いっぱいになった。

終末で、「きまりをまもると……」に続く言葉を考え、みんなが気持ちよく、笑顔で過ごせることのよさを確認した。



*子どもたちは、次第に友達の発言に反応するようになり、9月からはノートを使い始める。少しずつではあるが、ノートに自分の考えや気持ちを書いていくことで、考えを深めたり広げたりすることもできるようになっていく。

3. 終わりに

3月中頃、1年間の道徳授業について振り返り、そのノートを家の人にも読んでもらい、感想など

を書いてもらった。

【子どもの振り返り】

ぜんぶのどうとくのおはなしで、こころがすっきりしてやさしくなれたよ。みんなの気持ちもやさしくなったとおもうよ。

ぼくは、いのちをたいせつにするきもちと、やさしいきもちがよくわかったよ。

1年かんのどうとくをふりかえって、ぜんぶやさしくなりたくなつたよ。人のことやじぶんのことをおもっていきついたらいいんじゃないかとおもったよ。どうとくは、たからものだったよ。

【家の人感想】

最初は字だけで書いていたのが、後半になると赤や青、絵などで分かりやすく書かれていてすごいなと思いました。道徳で人の気持ちについてこんなに勉強しているとは驚きました。お母さんについて書いているページは、普段口にしないだけにうれしかったです。

自分のことや周りの人のことを大切に思う心が素直に書かれていて、とてもうれしく思ったよ。そんな大切なことを教えてくれる道徳の授業はステキな授業だね。

道徳の授業でたくさんのことを学んだのだと思います。特に印象深いのが、『ちゃんとたたつじん』。「ちゃんとすると～」をよく口に出していたと思います。道徳の時間を通して、先生、お友達と考えや気持ちを共有して大切な時間だったと思います。

1年間を通して、子どもたちと一緒に道徳の授業をつくり上げていくことは、とても楽しいことである。生きていくすばらしさを子どもたちと、また、家の人とも一緒に感じることで、教師としてうれしく思う。教科となっても、同様に作り上げていきたい。

めあてをもって生活する道徳の授業開きから授業納めまで

相模原市立青野原小学校 高橋 純

1. 授業開きの要点

どの教科にも共通することであろうが、授業開きでは、年間の学習を見通したり、授業の進め方を伝えたりするオリエンテーション的な要素が含まれることが多い。道徳においてもこれら二つの要素は必要であり、その内容について事例を交えて伝えていきたい。

まず、「年間の学習を見通す」ということであるが、これは教科書の目次を指して「いつ何を学習しますよ」と予告することではない。

一年間（授業時数35時間）を通して、「よりよく生きようとすることのよさを学ぶための見通しをもたせる」ということであり、具体的には「長期間をかけて取り組む道徳的なめあてをもつ」ということが考えられる。（光文書院教科書巻頭の「あなたは、どんな自分になりたいですか」と投げかけている部分に当たる）しかし、その展開には一工夫が必要である。

例えば、「友達に優しくする」というめあてを立てたとする。しかしこれでは漠然としていて、「何にどう取り組もうとしたのか」とか、その結果「どのような納得や実感が得られたか」が子どもの中に生まれ難い。行動に納得や実感が伴うことは子どもの成長に大きく寄与することなので、これらを自己評価できるめあてをもつことは大切である。では、「道徳の授業開きで検証可能な道徳目標を立てるのか」と思われるかもしれないが、わざわざ特設しなくても学級目標とセットで取り組んでいけばよいのである。

2. 学級目標と道徳を関連づける

できれば、道徳開き以前に、学級目標を立てておきたい。例えば、「元気で仲よく共にがんばる〇〇学級」のような大テーマ的な表題とともに、「週2回はみんなで外遊び」や「教室ゴミゼロ」などの細分化された実証可能な小目標を立てておくとよい。

学級目標は「〇〇しよう」や「△△できる」という行動目標的になることが多いため、道徳の時

間を通じて、その行動の根源となる心の有り様を考え、「どのような心の伴った行動に価値があるのだろうか」と考えていくのである。

3. 学級目標と結びつく道徳の授業

具体的な授業展開例は、次の通りである。

「みんなのためにできること」光文書院4年
 ○内容項目…C 勤労、公共の精神
 ○ねらい…働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働く。
 ○あらすじ…4年生に進級した主人公たちは、担任の先生より「上級生としての学校生活の送り方を考えよう」と投げかけられる。これまでは助けてもらうことも多かったが、これからはまわりの人たちを助けようという話し合いの結果、「みんなのためにできること」として「裏門のそうじ」を始めることにした。最初はちょっと大変でしかたなしにやっていたが、登校してくる人たちに声をかけられると気分がよく、みんなのために役立っていると思うとうれしくなってきた。そうじは一か月続いている。

本教材の展開方法はさまざまあろうが、次のような要点を押さえることで、よりねらいに迫れるものと考えられる。

- ①導入時に、題名「みんなのためにできること」とはどのような意味なのかを考える。
- ②教材を読み、行為（そうじ）に対する心の変容を共感的に捉える。
- ③中心的な活動として、「どうしてそうじを長く続けることができるのか」を問い、行為の本（もと）となる心を通して、活動が持続する意味を理解し、そのよさを感じる。特に「気分がいい」とか「うれしい」という感情は、周囲の人たちとのどのような関わりから生じる心の動きなのかを他律的、自律的、自立的といった多様な側面から考えることで、よりよく生きようとすることの深まりや広がりを

捉えることをめざす。

- ④まとめとして、本教材から学んだ「よりよく生きようとすることのよさ」と、導入時に考えた「みんなのためにできること」の意味を比較して、自分たちの考えがより深まったり広がったりしたことについて確認して価値の拡充を実感する。
- ⑤発展として、学級目標の取り組みには、どのような心が伴うことが大切であるかを考え、今後の活動の展望をもたせる。

4. 授業開きから日常生活へ

授業後は、日常生活の中で、学級目標への能動的な取り組みや善行などを積極的に評価し、学級内で共有（子どもたちの目に触れる形で提示されることが望ましい）することで実践の積み重ねを図っていく。

また、これらの活動と並行して、別の道徳の時間に生活中で積み重ねた実践を引用し、さらなる価値の発見や意識の持続・強化を図っていく。つまり、学級目標につながる取り組みを中心に「道徳的なものの見方、考え方、感じ方」という観点で子どもが自らのよさを見つめていこうとする学級生活を構築していくのである。

道徳は授業だけでは完結しない。授業で学んだことについて実生活の中に価値を見出し、また、実生活の行為を授業において補完するという、授業を要として価値の収斂や拡散を図ることで意識の拡充を図ることが大切なのである。それは道徳教育的なカリキュラムマネジメントともいえるだろう。

5. 授業納めを見据えて

このような「授業開き」を行った後は、その総まとめとして「授業納め」も考えておきたい。

一年間を振り返り、自分達の具体的な活動とそれに伴う意識の変化や成長を自己評価していくのである。短い期間では、大きな変化を感じることはできにくいかもしれないが、長期的な取り組みならば変容は見取りやすくなる。これがいわゆる「大きくくりの評価」と呼ばれる考え方の一つであろう。これからは、偶然に出現する善行を期待するのではなく、計画的で積極的に指導と評価を行うことも求められるだろう。少なくとも「教科」ならば

必要なことなのではないだろうか。

6. 授業の進め方を伝える

前述した授業展開例を段階的な学びの深まりという観点から補足したい。（※【 】は光文書院教科書巻頭の「さあ、道徳の時間をはじめます」の項目）

- ①【問いをもつ】導入時に内容項目について問題意識をもつ。
教材における道徳的な問題を捉え、「よりよく生きようとすることのよさ」を考えるための提起となる発問を行う。
- ②教材から行為の変容を読み取り、そこにどのような道徳的な問題が起きているのだろうかと考えることを促す。
- ③【考える・話し合う】道徳の問題を行為とその本となる心と関連づけて考える。そのとき、行為を他律的（褒められる、叱られるといった外因的な動機等）、自律的（しなければいけない、義務感等）、自立的（自らの思いに駆られる、行うことで心が充足する等）など、さまざまな観点から比較し話し合い、同じ行動でも本になる心が違うと価値も変わってくることを捉える。
- ④【まとめる】導入を振り返り、授業の最初と最後を比較する。本時で学んだことで自分の意識にどのような変容や拡充があったのかを捉え学ぶことで自分は広がり深まるという実感をもたせたい。
- ⑤【いろいろな場面へ】今回は、学級目標との関わりで考えたが、ふだんの授業ならば、自分の生活との関わりの中に価値を見出し、生活の充実を展望させたい。

これらの学び方は、実際の授業を通して育てていくこととなるが、一度で定着するものではなく、数回に渡ってていねいに進めることで身につけていくものと考えられる。

また、それと同時に、学び方を意識した道徳ノートの記事方法を指導することも効果的である。そして、道徳ノートは、子ども一人ひとりの学びを積み重ねた記録になるため、要所ごとに振り返れば、自らの成長を確認することのできる資料になるだろうし、教師にとっては的確な評価資料になるだろう。

児童の道徳性の発達段階を捉え、「学習プロセス」を学ぶ 道徳の授業開き

埼玉県和光市立第五小学校 古見 豪基

1. オリエンテーションのねらい

オリエンテーションでは、一年間にわたって道徳の授業で何を学ぶのかという方向づけを行うことをねらいとしている。学び方と道徳の本質について、児童に分かりやすく伝えることが大切である。また、すぐに主題に入るのではなく、児童が学びに興味や関心をもてるように効果的な活用の仕方を考えていきたい。さらに、道徳の授業をより豊かにするためには、みんなで学び合うことが大切であるということを伝え、協働的な学びに意欲をもたせるようにしていきたい。

2. 高学年の児童の道徳性の特質を捉える

道徳の学習を通して、児童に「どんな自分になりたいのか」について4つの観点（①自分自身のこと ②他の人とのこと ③集団や社会とのこと ④命や自然の大きな力とのこと）を示す際に、子どもの内なる力として道徳性の特質が、どのようであるかを見極めることは、大切なことである。以下、それぞれの特質について示していきたい。

①主として自分自身に関する特質

- ・自分に合った生活目標が立てられる。
- ・伝記に興味をもち始める。
- ・内省的になり、自覚ある行動をとろうとする。
- ・個性を自覚し始める。
- ・自分なりの目標を立て努力をするようになる。

②主として人との関わりに関する特質

- ・他の人の気持ちを考えて、自己コントロールし始める。
- ・正義感に燃えてくる。
- ・自他の調和を実現しようとし始める。
- ・物おじしないで、伸び伸びとしているが、礼儀の使い分けができない。
- ・行為を通して、自分の内面を見る力が育ち始める。
- ・自分が多くの人々に支えられていることを認識しているが、感謝の心は不十分である。

③主として集団や社会との関わりに関する特質

- ・集団意識がよりいっそうはっきりしてくる。
- ・義務意識が芽生えてくる。
- ・勤労に対する意識は、地域差が顕著である。
- ・6年生になると、上級生としての自覚が顕著に表れてくる。
- ・私たちという意識は、郷土・国への広がりを見せるようになる。

④主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する特質

- ・自然の偉大さや崇高なものに心を動かす。
- ・自然破壊に憤りを感じる。
- ・人間の心の醜さが見えるようになる。
- ・生命の「もと」を伝える適齢期である。

以上の特質を捉えることで、児童自身が自分の生活を振り返り、自分の可能性を伸ばすという積極的な教育へつながるようにしていきたい。

3. 道徳の授業の「学習プロセス」を学ぶ

道徳の授業では、どんなことを、どのように学ぶのかを学習者が知ることは大切である。また、「クラスみんなで考え、話し合う中で、考えを広げたり、深めたりしていくことが大切です。」ということを経験して、子どもたちと創造的な授業に取り組むことも大切である。

①「問いをもつ」

授業の導入では、子どもに興味・関心をもたせることが目的とされているが、それだけでは主体性は向上しない。

- ・道徳的価値を通して、子どもの経験の中で思考のズレを起こさせることで問題意識を高める。
- ・自分でも「できそうだ!」「考えてみたい!」という期待感（見込み）をもたせる。
- ・教材の中にも道徳的問題を発見させ、追求したいという見通しをもたせる。

これらの点を意識し、子どもたちの教材に対する問題意識を高めていきたい。

②「考える」

①の段階で問いをもたせたら、自分自身で判断したり、選択したりする中で自分自身の考えをもつことが大切である。考えるポイントとしては、自分の経験や読書体験、人から聞いた話などを通して、考えを比べたり、関係づけたり、違いを見つけた^{すべ}り、分類しながら整理したりするなどの「考える術」を伝えることも大切になる。

③「話し合う」

児童が何から学ぶのかを考えると、「教材」「教師」「友達」などである。授業ではある発言に対して、共感や批判が生まれる。共感は集団の一体感の中で、思考の積み重ねがなされ、批判は、別の角度から検討していくような多面的・多角的な思考を育むことになる。つまり、集団的な思考は個人の思考を育むことにつながるのである。また、友達の意見から「そういう考えがあったのか!」という新しい学びに気づき、意識の変容を促す働きがある。こうした話し合いのよさを生かすためには、児童に自由に任せるだけではなく、教師が児童の思考に沿った問いづくりを行い、問いかけていく必要がある。話し合いには、児童が自信をもって自己開示できる環境を整えることも大切な要素の一つである。

④「まとめる」

授業の終末は、授業を通して「分かったこと、理解したこと」「気づいたこと」を整理して自分のものにする段階である。学んだことをもう一度自分自身に問いかける段階ともいえる（自己内対話）。教師はテーマを通して学習前と学習後の考えに変容があったのかを児童に問う必要がある。個人でまとめた後に、全体で学びを共有する機会を設けることで集団的な学びが保証されることにつながる。

⑤「いろいろな場面で」

道徳の授業からさらに子どもの主体的な学習を生んでいくために、学んだことをさらに調べたり、実践したことをクラスで発表したりすることで実感の伴う学習へと深めていくことが大切である。

4. 道徳ノートを使った実践

書く活動は、最高の思考活動であり、自分を映す鏡であるとも言える。高学年では、生活学習の中の自分の課題や思いに向き合わせるためにノー

トを自主的に使わせる必要がある。子どものよい学びのためのノートを目指した指導の事例を以下に挙げる。

①授業前のノートの書き方

授業前には問題意識を高めるために、テーマについて事前に考える機会を設けている。調べるなどの学習をする上で、以下の学びのポイントを児童に示している。

- ・問題や課題に対して自分の考えを書く。
- ・自分の経験から考え、思ったことを書く。
- ・辞書、図鑑などで調べて書く。
- ・家の人や知り合いにインタビューして書く。
- ・上記を言葉や絵や図を使い、整理してまとめる。

②授業中のノートの書き方

物事を多面的・多角的に考えることをねらいとすることから以下のポイントを児童に示している。

- ・日付 ・通算の授業回数 ・発言回数
- ・思考ツールを使った図
- ・自分が考え判断した意見
- ・友達の考え ・新しい発見、気づき
- ・キーワード ・感想

③授業後のノートの書き方

学習の定着（メタ認知）という観点から以下のポイントを児童に示している。

- ・今日の授業で分かったことを書く。
- ・友達の意見について自分が思ったことを書く。
- ・自分が納得したことを書く。
- ・学んだことをもとに、これからの自分について書く。

5. 授業を子どもの確かな力にするために

道徳の授業で学んだことをさらに発展させるためには、家庭教育や地域社会との連携を図り、学びの機会を拡充していく必要がある。また、授業の評価については、児童の学びのための評価をねらいとし、教師の授業の質的改善を図ることも考えられる評価にしていきたい。

「学びの足あと」を用いた道徳の評価

敬愛大学教授 市川 洋子

1. 「学びの足あと」について

「小学道徳 ゆたかな心」の巻末には、「学びの足あと」を用意しています。

この「学びの足あと」は、道徳の授業を受けて感じたこと、考えたことをまとめる活動を通し、子どもたちの振り返る力、自己評価力を高めることをねらいとしています。授業最後の短時間を使って、学んだことを内省し、これからの行動にどう生かしていくかを考えさせていきます。

授業ごとにその日の学習について記入させ、これを毎時間続けさせていくことで、子ども自身が自分の心の変化や成長を一覧化して振り返ることができるようになりますとともに、教師の授業評価として、指導の改善に活用することもできます。

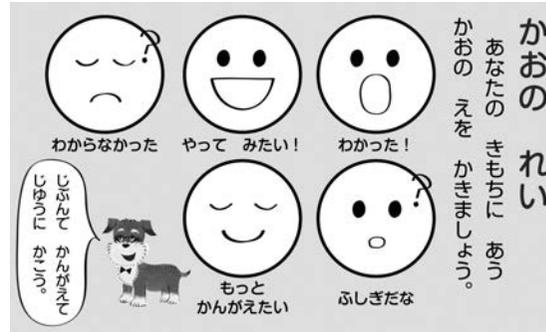
また、学期を通して全体を俯瞰し、考えを記入することができる「まとめ」の欄も設けています。学習の中で気づいたこと、自分の考えの変容などを、学期や学年を通して振り返ることができます。

2. 低学年(1～2年)の「学びの足あと」



低学年は、学習した日付と教材番号の他、授業後の気持ちを顔の表情で表すための記入欄で構成しています。

表情については、「学びの足あと」の書き方の中に5つの例を示していますが、必ずしもよい表情である必要はありません。子どもの素直な気持ちのまま、自由に書かせてください。



顔の表情を書くことに慣れてきたら、「考える頭（道徳的理解、判断力）」「感じる心（道徳的心情）」「行動する力（実践意欲と態度）」の3つの観点（評価規準）のいずれかを自分を振り返る観点として使って、表情を考えさせていくとよいでしょう。ここで大切なのは、なぜその表情にしたのかを子どもたちが説明できるようにすることです。そして、子どもの書いた表情が気になるときは、どうしてその表情にしたのか、その理由を聞いて、その子どもに対するフォローや指導の改善の必要性を検討することが重要です。

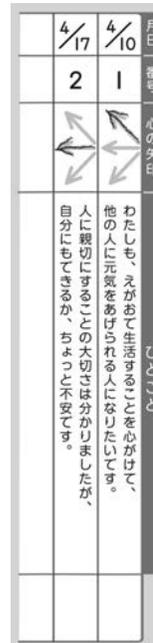
「まとめ」については、学期の終わりや学年の終わりといった区切りの時期に、子どもがこれまで書いてきた表情を見直させ、どのような表情が多かったか気づかせながら、自分自身の心の動きや葛藤、成長を大きくくり振り返らせ、子どもの書く力に応じてまとめさせます。

よかった表情のときの気持ちを振り返らせ、今もそのときの気持ちが変わらないかを考えさせたり、あまりよくない表情のときについて、今振り返ったときにどう思うかを再度考えさせたりするといった振り返りにより、子ども自身が自己の変化に気づけるように促してください。

3. 中・高学年(3～6年)の「学びの足あと」

中・高学年は、学習した日付と教材番号の他、授業後の気持ちを矢印で表すための「心の矢印」記入欄、なぜその矢印にしたかといった理由や学習の中で感じたことをまとめる「ひとこと」記入欄で構成されています。

「ひとこと」記入欄の下部にもスペースがあります。ここでは主に先生がたが使うためのスペースですが、子どもが先生からの質問に返事を書いたり、保護者からのコメントを書いたり、自由に使うことができるようになっていきます。



「心の矢印」は、その日の授業を振り返って、「考える頭（道徳的理解、判断力）」「感じる心（道徳的心情）」「行動する力（実践意欲と態度）」の3つの観点（評価規準）のいずれかの観点から矢印の傾きを考え、記入させます。例として3方向の矢印を示していますが、このどれかである必要はありません。矢印の向き、長さ、太さについては規定せず、子どもたちが感じたままに自由に書けるとよいでしょう。

「ひとこと」の欄には、どうしてその矢印にしたのか、その理由や感じたことを子どもたちに書かせます。初めのうちは理由が書けていたら、その部分に朱線を引きます。この繰り返しで、子どもたちはどのようなことを書けばよいか分かってきます。また、気になる内容については教師から問いかけを含んだコメントを返すことで、子どもの意識をより掘り下げていくとよいでしょう。

教師のコメントは、「ひとこと」の欄が空いていればそこへ書き込んでもよいですし、下部のスペースを利用して書き込めるようにもしています。ここに「大変よくできました」や「見ました」といったスタンプを押して終わらせることは避けてください。このコメントは、毎回すべての子どもに対して残す必要があるものではありません。必要ときに先生からのコメントが書かれているこ

とで、子どもたちは自分の記述について振り返るようになります。また、問いかけを含んだコメントには必ずその子どもに返事を書かせるようにすることが大切です。その際は、下部のスペースを少し残し、そこを使わせるとよいでしょう。

例えば、矢印の向きとその理由が矛盾していたら、「どうして矢印が下がっているの？」などとコメントを入れるとよいでしょう。また、「楽しかったから」といった単なる感想を記述する子どもに対しても、「何が楽しかったの？」などとコメントを入れるとよいでしょう。場合によっては、直接子どもに聞いてみることも必要です。

「まとめ」についても、低学年のときよりも思考が深くなり、書く力もついてくることでより多様な振り返りが表れてくると思います。学期や学年といった大きくくりの中で、一つ一つの矢印を振り返らせ、全体を俯瞰した中での気づきや、今の自分はどうかという自己の変化についてまとめさせることで、今後自分はどうかありたいかを考えさせるきっかけとしていけるとよいでしょう。

4. おわりに

「学びの足あと」による自己評価で重要なのは、子ども自身の「思い」です。自分の思いに向き合い、気づき、自覚することがこの評価の大きな目的です。子どもたち自身がよりよく生きるための気づきのために、「学びの足あと」を活用していただければと思います。

○市川先生によるより詳しい学習履歴図（「学びの足あと」）での評価の解説や、実践例については、こちらで紹介しています。



「指導と見取りのポイントが分かる！子どもに寄り添う道徳の評価」
B5版 / 160P
定価2,300円 + 税

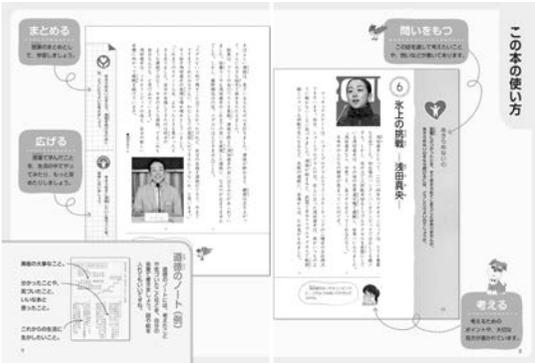
道徳教科書 Q&A

編集グループ

これまで先生方からいただいたご質問のうち、多く寄せられたものを、いくつか紙面で共有させていただきます。

Q1 教科書の教材の冒頭に掲載されている「導入」や、教材の脚注部に掲載されている「問いかけ」は、授業で必ず使用しなければいけませんか？

A1 教科書に掲載している「導入」「問いかけ」「終末」「発展」は、「問いをもつ」「考える」「まとめる」「広げる」という、本時のねらいを達成するための展開の一例です。道徳のねらいに向けて、子どもたちが効果的に考えることができるよう、ヒントを示しています。指導の実態に応じて、ご利用いただければと思います。



▲5年 オリエンテーションページ

また、デジタル教科書には、「問いかけ」部分の表示・非表示が選択できる機能もありますので、必要に応じてご利用ください。

Q2 道徳のノートの書き方が、教科書のオリエンテーションページに示されていますが、道徳ノートはデジタル教科書に収録されていますか？

A2 収録していません。道徳のノートについては、自分の意見をまとめたり、他の人の意見を聞いて、1時間の中で気づいたことや今後やりたいことを書いたりすることで、子どもたちの思考を広げることができるツールだと考えています。既定の内容を既定の箇所に書かせる活動は、先生方の授業も、子どもたちの思考も縛ってしまう可能性がありますし、ノートを埋めることが目的となってしまうと、せっかくの教科化の意味がありません。

市販の一般的なノート（方眼や横罫のノート）や、デジタル教科書に収録しているワークシートを活用することで、十分に実現できると考えています。

Q3 ワークシートは、すべての教材に付いていますか？

A3 すべての教材に付いています。デジタル教科書に、wordデータで収録していますので、先生方が指導の実態に応じて加筆・修正してご利用いただくこともできます。

また、「デジタルワークシート」としても収録しているので、デジタル教科書上での書き込み・チェックも可能です。

Q4 教科書には1学年40教材ありますが、どのような基準で年間指導計画を立てればよいでしょうか。また、教材の配列にはどんな工夫がありますか？

A4 基本的には1～35番までの教材で、学習内容を網羅できるように構成しています。36～40番の教材については、選択教材として、35番までの教材と差し替えて活用することができます。（1年生は、35～40番の教材が選択教材となります。）

教材の配列については、他教科・領域の学習時期を考慮し、連携が図りやすい時期に配置しています。また、学期初めには学級づくりに必要な内容項目の教材やコラムを配置したり、夏休み前には情報モラルに関する教材やコラムを配置したりするなど、指導の実態に合わせた工夫をしています。

もちろん、学級や学年・学校の目標などに合わせて、学校行事や他教科の学習などに関連させながら、教科書以外の定番教材や自作の郷土教材、TVなどの映像資料といった幅広い教材を含めて、年間を通して、効果的に子どもたちが道徳の学習を進めることができる計画を立てていただければと思います。

年間指導計画等の指導資料作成のためのデータは、デジタル教科書に収録しているほか、下記弊社webサイトからもダウンロードしてご利用いただけます。

▼光文書院 道徳教科書 ダウンロードページ

<https://www.kobun.co.jp/download/tabid/570/Default.aspx>

■これから教科書を実際に使われるなかで、ご質問・ご意見等がございましたら、下記までお問い合わせください。みなさまのご意見が、よりよい教科書につながります。

・電話番号 03-3262-3271（月～金 9：00～17：00）

・お問い合わせフォーム

<https://www.kobun.co.jp/contact/tabid/290/Default.aspx>



デジタル教科書 どう使う？

編集グループ

いよいよ4月から、「特別の教科 道徳」が始まります。光文書院では、紙の教科書に加えて、子どもたちの学びを広げ、深める「デジタル教科書 道徳」(デジ徳)をご用意しています。

ここでは、使用場面ごとに、具体的な収録内容と使い方をご紹介します。

主な収録内容 (◎=学習者用・指導者用, ○=指導者用) ※一部機能はiOS版には対応していません。

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| ◎デジタル教科書 (電子ブック) | ○デジタル指導書 朱書編 (電子ブック) |
| ◎デジタルワークシート | ○教師用指導資料 |
| ◎デジタル「学びの足あと」 | ○地域教材 (10都県) |
| ○ワークシート・「学びの足あと」記録閲覧 | ○道徳解説動画 |
| ○「ひまわり先生」(総合評価支援システム) | ○デジタル教科書収録資料一覧 |

1. 授業準備

指導者用

① 年間計画を立てる

「教師用指導資料」には、「全体計画例」「全体計画例別業」「道徳の年間指導計画例」「学習指導案」など、年間から一単位時間まで、道徳教育と授業の構想に役立つ資料を多数収録しています。

② 授業の展開を考える

「デジタル指導書 朱書編」は、授業の展開例を記載した「教師用指導書 朱書編」を電子ブックとして収録したものです。

「道徳解説動画」では、深く考える道徳授業を実現するためのポイントを「内容項目の捉え方と教材の読み」「板書」「発問」「道徳ノート」「評価」の5つのテーマに分けて、加藤宣行先生(筑波大学附属小学校 教諭)・土田雄一先生(千葉大学 教授)が解説しています。それぞれ、基本的な考え方や低・中・高学年ごとの考え方を、実例を示しながら詳しく解説し、先生方の疑問に答える内容になっています。

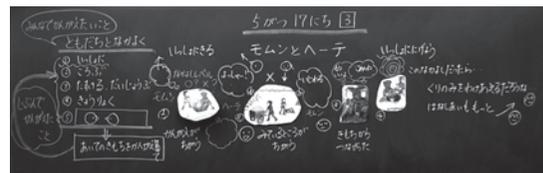


▲道徳解説動画 「板書のくふう」

③ 板書の素材を準備する

教科書掲載のさし絵・写真をほぼ全点収録。ペーパーサート(顔絵)用素材も充実しています。

「デジタル教科書収録資料一覧」からこれらを印刷し、板書などに活用することで、子どもの理解を助け、深く考えることにつながります。



▲2年「20 モムンとヘーテ」

2. 授業の中で

学習者用 指導者用

教科書の電子ブックとしての機能に加えて、子どもたちの学びを広げ、深める資料を豊富に収録しました。

① 教材関連動画を活用する

「デジタル教科書 (電子ブック)」から、教材の内容に関連する動画を見ることができます。授業の中で子どもたちに見せることで、教材の内容への理解を深めることができます。

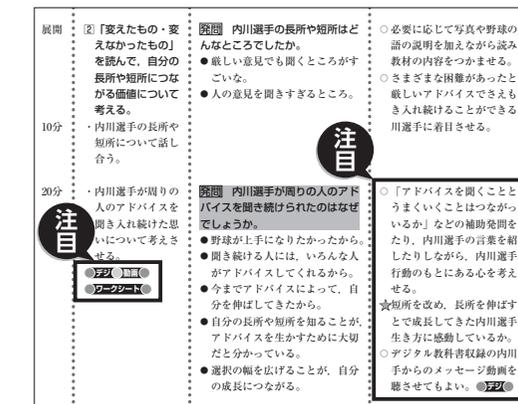
例えば、教科書の登場人物のインタビュー動画では、学習した教材の本人が子どもたち自身に話しかけてくれることで、その人物を身近に感じ、教材への興味・関心をより高めることにつながります。



▲教材関連動画 5年「20 変えたもの・変えなかったもの」 福岡ソフトバンクホークス 内川聖一選手

デジタル教科書に収録された動画や素材について、「あることは分かっているけど、使い方が分からない」という声を耳にします。

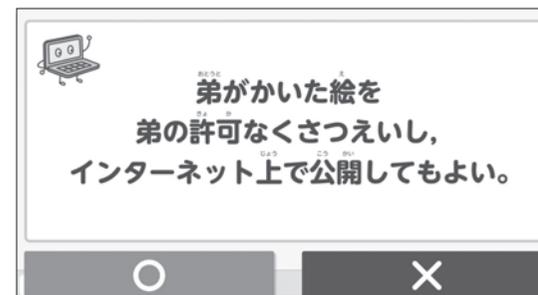
そのような声にお応えして、「教師用指導書 解説編」の紙面上の「展開例」において、デジタル教科書収録素材を活用した具体的な授業の展開と使い方を分かりやすく紹介しています。



※収録素材については、p.15~18の一覧表をご参照ください。

② 情報モラルの学習を広げ、深める

情報モラルのコラムには、関連アプリとして教材の内容を分かりやすくまとめた「読み物」と、情報モラルの理解度を確かめられる「クイズ」を収録しています。



▲5年「だれの研究？」に対応した「クイズ」

③ 一人ひとりに合わせてカスタマイズする

さまざまな子どもたちの学びを保障するために、ほぼ全ての教材に、プロの声優による朗読を収録しています。また、白黒反転紙面・総ふりがな紙面(1~3年は教科書が総ふりがな表示のため、4~6年のみ)表示にも対応しています。

3. 授業の後で

道徳の評価についても、先生方の疑問や悩みを解消する、便利な機能を豊富に備えています。

① 子どもの考えの変容を見取る

学習者用 指導者用

「デジタルワークシート」(全教材に対応)と「デジタル『学びの足あと』」は、子どもがデジタル教科書上で書き込むことができ、それに教師がコメントをつけることもできます。これらをもとにして、1時間の授業での子どもの考えの変化や、中・長期的な子どもの変容を見取ることができます。

※これらの機能を使用するには、各種設定が必要です。

② 「ひまわり先生」と連携させて活用する

指導者用

「ひまわり先生(総合評価支援システム)」*と連携させることで、道徳に対応した機能として「道徳補助簿」・「みまもりノート」を活用することができます。

「道徳補助簿」は、1時間ごとの子どもの様子を端的に記録するのに役立ちます。

「みまもりノート」では、学校における日常生活の中で先生方が気づいた子どもの様子を書き込み、先生どうしで共有・蓄積することができます。担任の教師だけで子どもの様子を全て把握するのは難しいものです。「みまもりノート」を活用し、学校全体で子どもたちの姿を見取ることで、道徳の評価の一助とし、子どもの実態を多面的・多角的に捉えることにつながります。

※「ひまわり先生」は、週案作成から、各教科のテストの得点入力、通知表作成、指導要録資料の作成まで一元管理できるソフトウェアです。詳細は弊社Webサイトをご確認ください。

<https://www.kobun.co.jp/tabid/506/Default.aspx>

デジタル教科書収録素材 一覧表

1年	教科書 画像	追加 画像	ペー プ サ ー ト	朗 読	動 画	そ 他	2年
1 みんなで たのしく	○		○	○			1 学校 大すぎ
2 あいさつで しあわせに	○		○	○			2 学校たんけん
3 がっこうたんけん	○			○			3 できるね ポンタくん
4 みんなで まもろう	○	○		○			4 そこだね ポンタくん
5 わたしに できる こと	○		○	○			5 げんかんそうじ
6 おたんじょうび れっしや	○			○		◆	6 くろぶたの しっぱい
7 みんな みんな いきて いる	○			○		◆	7 おもいきって いてごらん
8 ぼく はずかしいや	○		○	○			コラム：あいさつが きらいな 王さま
9 がっこうまでの みち	○			○			8 やさい村の 子どもたち
コラム：おおきく そだてよう「ありがとうの き」	○		○		○		コラム：「きらきら」 みつけた
10 かぼちゃの つる	○		○	○			9 おとうとの たんじょう
11 まちたんけん	○	○		○			10 わたしたちも しごとを したい
12 あおしんごう	○		○	○			11 なかよしで いたい
コラム：ネットマナーとは なんでしょうか	○					★	12 三べん かんがえて
13 ぶうたの やくめ	○		○	○			13 オリンピックと パラリンピックの はた
14 おとしよりと いっしょに	○			○			コラム：ネットマナーを みに つけましょう
15 ぼくは いかない	○			○			14 ピーマンマンと よふかし大まおう
16 わきだした みず	○			○			15 わたしの おじいさん、おばあさん
17 きんの おの	○		○	○			16 ぐみの木と 小鳥
18 ちゃんとの たつじん①	○			○			17 ぼくの まちも、ひかっている！
19 ちゃんとの たつじん②	○			○			コラム：ぼくの まち、わたしの まち ピカッと ひかる いい ところ
20 うちの ねこ	○			○			
21 もみじがり	○	○	○	○	○		18 くつつくし
コラム：にっぽんの ぎょうじ 一ねんかん	○						19 レッドカード
22 すてきな ことば「あふたあ ゆう」	○			○			20 モムンと ヘーテ
コラム：ぼくの わたしの すてきな がっこう	○						21 のごぎり山の 大ぶつ
23 はしの うえの おおかみ	○		○	○			22 お月さまが みて いる
24 ルールが ないと どう なるの？	○			○			23 ジョゼクんと おりがみ
25 一にち 十ぶん	○			○			24 はたけの 先生
26 だいじな わすれもの	○		○	○			25 うつくしい もの、うつくしい ところ
27 エマさんの こたえあわせ	○		○	○			26 おかあさんとの やくそく
コラム：がいこくと にっぽんの ちがい	○				○		27 かいらんばん
28 ひつじかいと おおかみ	○			○			28 小さな できごと
29 なまはげ	○			○	○		29 きれいに なった ずこうしつ
30 ぎんの しずく	○		○	○			30 おりがみ名人
31 二わの ことり	○		○	○			31 とくべつな たからもの
32 ぼくにも あるかな	○		○	○			32 はかたにぎょうの 名人 一こじま よいちー
33 ひしゃくぼし	○	○	○	○			33 わたしの ものがたり
34 もうすぐ 二ねんせい	○		○	○			34 わたしの 力
コラム：みんな なかよし たのしい がっこう	○						35 さくらの木と いっしょに
コラム：ことばの たからもの							コラム：どんな クラスに したいかな？
35 うわばきぶくろ	○			○			コラム：ことばの たからもの
36 スポーツと おじぎ	○	○		○			36 ねこが わらった
37 きいろい ベンチ	○		○	○			37 小さな ゆきうさぎ
38 ぼくに もたせて	○			○			38 おとす 人、ひろう 人
39 さるの おかあさん・サヤカ	○			○	○		39 一まいの しゃしん
コラム：みんな いっしょうけんめい いきて いる	○						40 しあわせの 王子
40 ウォルト・ディズニー	○	○		○			

★=情報モラルの「読み物」と「クイズ」 ◆=音楽

教科書 画像	追加 画像	ペー プ サ ー ト	朗 読	動 画	そ 他	3年	教科書 画像	追加 画像	ペー プ サ ー ト	朗 読	動 画	そ 他
○			○			1 友だち屋	○			○		
○			○			コラム：えがおいっぱい「サイコロドワーイング」	○				○	
○			○			2 電話のおじぎ	○			○		
○			○			3 千ばづる	○			○		
○			○			4 目をさますたね	○			○		
○	○		○			5 清作のおてつだい	○	○		○	○	
○		○	○			6 心の優先席	○	○		○		
○			○			7 はた・らく	○			○		
○			○			8 ドンマイ！ ドンマイ！	○			○		
○			○			9 わたしのしたこと	○			○		
○		○	○	○		10 いのちのまつり	○			○		
○			○			11 いただきます	○			○		
○			○			12 キツネおどり	○			○	○	
○	○	○	○			13 太郎のいどう教室	○			○		
○			○			コラム：インターネットのじょうほうはかならず正しいの？	○					★
○					★	14 世界一うつくしい体そをめぐして ー内村航平ー	○			○		
○			○			コラム：オリンピックのフェアプレー	○					
○			○			15 ないた赤おに	○		○	○		
○	○	○	○			16 うみねことたんぼぼ	○			○	○	
○			○			17 ぼくは 太郎山	○			○		
○				○		18 こまるのはだれ？ これでいいのかな？	○			○		
○						19 みんなでつくろう！ がっきゅうルールブック	○			○		
○			○			20 ぼくらは小さなにはかせ	○			○		
○			○			21 わたしだって	○			○		
○		○	○			22 花さき山	○			○		
○			○			23 思い切って言ったらどうなるの？	○			○		
○	○		○			24 いちょうの木をまもるために	○			○		
○		○	○			25 ぼく知らなかったよ	○			○		
○			○			26 お母さん、かぜでねこむ ーちびまる子ちゃんー	○					
○			○		◆	27 生きたれいぎ	○			○		
○		○	○			28 うわさ話・つらい気持ち	○			○		
○		○	○			29 おばあちゃんのおせち	○			○		
○			○			コラム：おせちりょうり	○					
○			○			30 四人五きやく	○			○		
○		○	○			31 きょうりよくクラス	○			○		
○		○	○			32 やくそくだもん	○			○		
○			○			33 赤い灯 ゆれろ	○	○		○		
○			○			34 お日さまの心で	○			○		
○			○			35 海をわたるランドセル	○			○	○	
○		○	○			コラム：同じいけんじやないと友だちじゃないの？	○					
○						コラム：ことばのたからもの						
○						36 台風の日	○			○		
○			○			37 おばあちゃんのコースター	○			○		
○		○	○			38 こまったときは、おたがいさま	○			○		
○		○	○			39 命どうたから	○	○		○		
○		○	○			40 ヨシノボリ	○			○	○	

4年	教科書 画像	追加 画像	ペー プ サ ー ト	朗 読	動 画	そ の 他	5年
1 貝がら	○	○		○			1 帰ってきた、はやぶさ
2 みんなのためにできること	○			○			2 一枚の写真から
3 サッカーボール	○			○			3 ひみつのトレーニング
コラム：「言葉のキャッチボール」(ナイスボール)	○				○		コラム：連想イメージゲーム「いいねコール」
4 十さいのプレゼント	○			○	○		4 シンボルマークにこめられたものは
5 さか上がり	○			○			5 助け合い傘
6 お母さんのせいきゅう書	○			○			6 氷上の挑戦 ー浅田真央ー
7 かさ	○			○			コラム：世界で活躍する日本人
8 ねがいをつみ上げた石橋	○			○	○		7 まかせてみようよ
コラム：地域のねがいでつくり、守られてきたもの	○						8 みんなの劇
9 どっちがいいか	○			○			9 いっしょに何をしようかな
10 自分たちにできるエコ活動	○	○		○			10 「また来てね」
11 ゲームのやくそく	○			○			11 ガンジーのいかり
12 わたしのゆめ	○			○			12 日本の心とかたち ー真・行・草ー
13 早起きは三文の徳	○			○			コラム：だれの研究？
コラム：インターネットの落としあな	○					★	13 海を耕す人たち
14 ブラジルからの転入生	○			○			14 ドッジボールを百倍楽しくする方法
15 石油列車、東北へ向かって走れ！	○			○	○		15 「スイミー作戦」「ガンジー作戦」
16 ぼくはMVP	○			○			16 短所も長所
17 学級新聞作り	○			○			17 セルフジャッジ
18 心の体温計	○			○			18 世界の文化遺産
19 せきが空いているのに	○			○			コラム：日本の世界遺産
20 良太のはんだん	○			○			19 家族の紹介
21 みかん出し	○			○			20 変えたもの・変えなかったもの ー内川聖ー
22 雨のバスでいりゅう所で	○			○			21 星が光った
23 元気がいちばん	○			○			22 約束
24 鳥にのこしたかきの実	○			○			コラム：スマホと上手に付き合うために
25 「祭り日」	○			○			23 命をかけて命を守る ー山岳警備隊ー
26 十六番目の代表選手	○			○			24 生きる力を引き出す笑い
コラム：パラリンピックの競技	○						25 母の仕事
27 ノーベル賞の生みの親 ーアルフレッド・ノーベラー	○			○			26 藤井駅のホームでのできごと
コラム：ノーベル賞の歴史	○	○					27 自然を守るエゾリス
28 えがおの花大作戦	○			○			28 救急車
29 百羽のつる	○			○			29 心の管理人
30 ぼくの生まれた日 ードラえもんー							30 ふるさと ー六年生を送る会ー
31 図書館で	○			○			31 ミレーとルソー
32 お礼の手紙	○			○			32 富士観測所をつくるために
33 さくらのかけ橋	○			○			コラム：思い切って言ってみたら……
コラム：世界のいろいろな料理	○						33 明日へ向かって
34 レスキュー隊	○			○	○		34 ちひろの思い
35 五百人からもらった命	○	○		○			35 マララ・ユスフザイ ー一人の少女が世界を変えるー
コラム：いつも同じグループでいいのかな？	○						コラム：よりよく生きるために
コラム：ことばのたからもの							コラム：ことばのたからもの
36 心にブレーキ	○			○			36 うばわれた自由
37 とべ！ ペットボトルロケット	○			○	○		37 手品師
38 ぼうや、生きていてくれよ	○			○			38 バスと赤ちゃん
39 かつおぶし	○			○	○		39 妹の手紙
40 誠の碑	○			○			40 ホベイロのヤマさん

教科書 画像	追加 画像	ペー プ サ ー ト	朗 読	動 画	そ の 他	6年	教科書 画像	追加 画像	ペー プ サ ー ト	朗 読	動 画	そ の 他
○	○		○	○		1 一年生のお世話係 ーアフター・ユースー	○	○		○		
○			○			2 勇太への宿題	○			○		
○			○			3 温かいおまんじゅう	○			○		
○				○		コラム：「あっ、どうしよう」「ナイスリターン」	○				○	
○			○			4 夢に向かって ー三浦雄一郎ー	○			○	○	
○			○	○		5 陽子、ドンマイ！	○			○		
○			○			6 鑑真和上	○			○		
○						7 本屋のお姉さん	○			○		
○			○			8 世界がおどろく七分間清掃	○			○	○	
○			○			9 カッコいいお父さん	○			○		
○			○			10 技術で「障がい」をなくしたい ー遠藤謙ー	○			○	○	
○			○			コラム：パラリンピックの用具	○					
○			○	○		11 「マナーからルールへ、そしてマナーへ」	○			○	○	
○			○			12 いらなくなったきまり	○			○		
○					★	コラム：あなたはだあれ？	○					★
○			○			13 自然のゆりかご	○			○		
○			○			14 ブランコ乗りとピエロ	○			○		
○			○			15 誠実な人 ー吉田松陰ー	○			○		
○			○			コラム：教育や学問で活躍した人々	○					
○			○			16 松井さんのえがお	○			○		
○			○			17 地球があぶない	○			○		
○	○					コラム：富士山を守る	○					
○			○			18 本当にだいじょうぶ？	○			○		
○			○	○		コラム：携帯電話やスマートフォンの使用時間						
○			○	○		19 お茶の心	○			○	○	
○			○			20 いちばん近い自然「里山」	○			○	○	
○			○			21 きみの声が聞きたい	○			○		
○			○	○		22 これが日本	○			○		
○			○			23 フーバーさん	○			○		
○			○			24 六千人の命を救った決断 ー杉原千畝ー	○			○		
○			○			25 すあしにサンダル天使 ーマザー・テレサー	○			○		
○		○	○	○		26 命のおにぎり	○			○		
○			○			27 森川君のうわさ	○			○		
○			○			28 めざせ、百八十回！	○			○		
○			○		◆	29 最後のひと葉	○			○		
○		○	○			コラム：周りの人を見てみよう	○					
○			○			30 生命のメッセージ	○			○	○	
○						31 命と向き合う人生	○			○		
○			○		◆	32 負けないで	○			○		
○			○			33 大空に飛び立つ鳥	○			○		
○			○			34 青の洞門	○			○		
○						35 わたしはひろがる	○			○		
○						コラム：わたしはどうひろがる？	○					
○						コラム：ことばのたからもの						
○			○			36 友のしょうぞう画	○	○		○		
○		○	○			37 あやまってすむことじゃない	○			○		
○			○			38 花びんのある駅	○			○		
○			○			39 町おこしプラン	○			○		
○			○	○		40 羽ばたけ、折り鶴	○			○		

こぶん
エデュ



子どもに寄り添う

道徳の評価

編著 加藤宣行 筑波大学附属小学校教諭

道徳
ノート

学習
履歴図

などを活用した授業実践による
評価の実例を多数掲載!

B5判 / 160P 定価 2,300円 + 税 ISBN978-4-7706-1072-0

インターネット・一般の書店からでも
お求めいただけます。

- 「道徳ノート」や「学習履歴図」と、先生のコメントを丸ごと掲載!
- 子ども一人ひとりに寄り添い、その成長を願う評価!
- 理論と実践の双方から子どもたちの学びの見取りを明らかに!
- 子どもの成長に生かすことのできる12の実践+24本の評価実例!

こぶん
エデュ



実践から学ぶ

深く考える道徳授業

編著 加藤宣行 筑波大学附属小学校教諭

竹井秀文 東京学芸大学附属竹早小学校教諭

B5判 / 160P 定価 2,300円 + 税 ISBN978-4-7706-1065-2

子どもが変わる!
授業が変わる!!

インターネット・一般の書店からでも
お求めいただけます。

- 読めば読むほど、指導の引き出しがドンドン増える!
- 現場サイドに立った「深く考える」道徳授業論!
- 1つの資料につき2つの実践を掲載。実際の授業をもとにした展開例が24本!
- 実際の授業を撮影し、授業のポイントを解説したDVD付き!

子どもの道徳 No.118

編集：「子どもの道徳」編集委員会 発行者：長谷川知彦

発行所：株式会社光文書院 〒102-0076 東京都千代田区五番町14 ☎ 03-3262-3271

表紙：KINOSHITA design 組版・製版（株）木元省美堂 平成30年3月